



～第4号～ 防除・水管理編

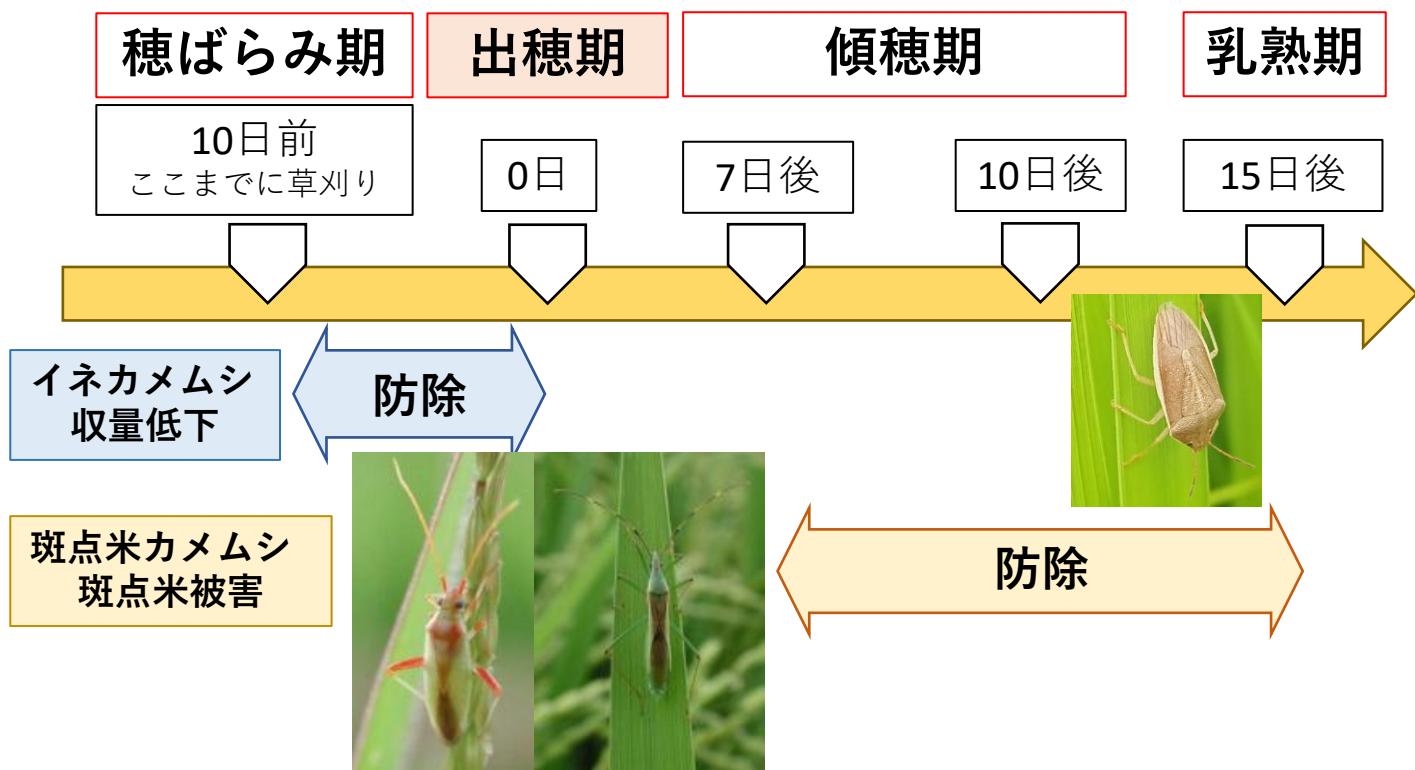
8月の平均気温は、かなり高く、降水量も少ない見込みです。

熱中症に注意！

- ・こまめに休憩し、水分・塩分を補給する
- ・高温時の作業は極力避ける
- ・帽子や空調服などの熱中症対策アイテムを活用する。
- ・熱中症が疑われる場合には、直ちに作業を中断し、涼しい場所へ避難する。症状が改善しない場合は病院へ。

1. 病害虫防除

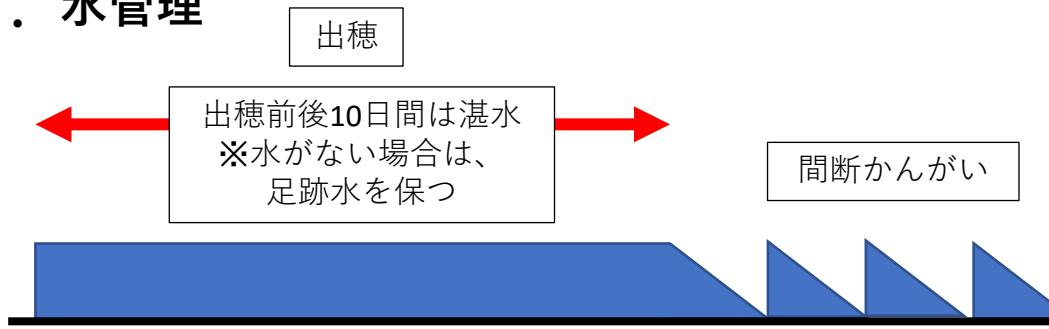
◎農薬散布時期



◎雑草管理

- ・斑点米カメムシは、イネ科雑草に飛来する
 - ・出穂10日前までに、畦畔の草刈りをする
- ※出穂直後の草刈りは逆効果

2. 水管理



- ①出穂期の水不足は、乳白粒の発生につながるため、
出穂前後10日間は、**2~5 cmの浅水で湛水する**
- ②出穂20日後以降は、根の活力を維持するため、
間断かんがい（自然に落水→入水）を行う

3. 台風時の対策

【台風通過前】

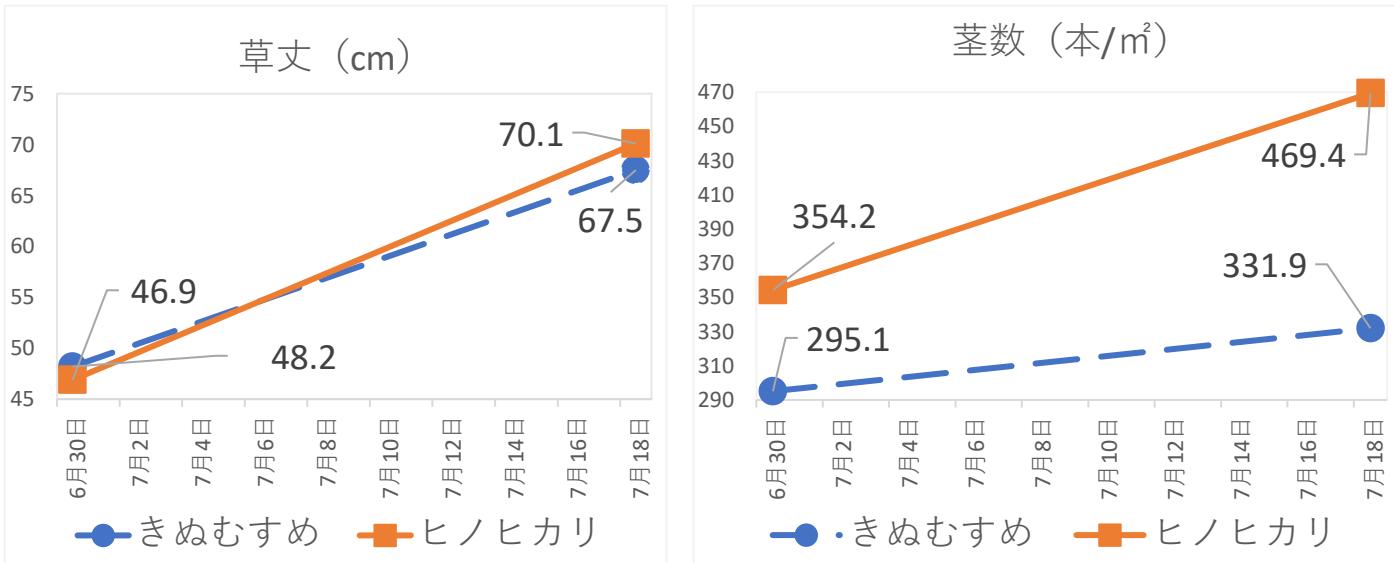
- ①倒伏、乾燥防止のため**深水にする。**
- ②刈取り適期が近い稻は、**早めに刈り取る。**
- ③排水口、排水路を整備する。

【台風通過後】

- ①幼穂形成期以降の台風は、稻体が損傷し老化が進む。
根の活力維持をはかるため、出穂前後であっても湛水せずに**間断かんがいを行う。**
- ②台風通過後は病害虫が多発するため、発生状況を確認し、**防除を行う。**

4. 今までの生育（きぬむすめとヒノヒカリ比較）

場所：木津川市相楽 田植え日：5月30日



※参考（鳥取県資料） きぬむすめ目標穗数 330本/m² (栽植密度18~21株/m²)
(京都府資料) ヒノヒカリ目標穗数 369本/m²